

ていね地域フォーミュラリ Vol.4

歯科診療における鎮痛薬

【第一推奨】

アセトアミノフェン

- COX-1、COX-2 を介さずに解熱鎮痛作用を示すため、NSAIDs より副作用が少なく最も安全性に優れている
- 鎮痛・解熱作用はあるが、抗炎症作用はない
- 散剤、液剤、坐剤、外用剤、注射剤など複数の剤型あり
- 小児適応あり
- 1 日総量 1500mg を超す高用量で肝障害に注意

ロキソプロフェンナトリウム

- プロドラッグであり、胃腸障害が少ない
- 散剤、外用剤が発売されている
- 日本では使用頻度が最も高い NSAIDs である（複数のガイドラインで代表的な薬剤として例示）

【第二選択】

セレコキシブ

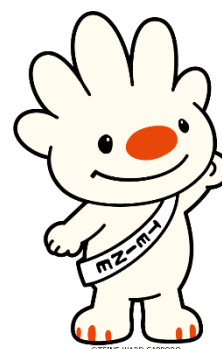
- COX-2 を選択的に阻害し、消化管への影響が少ない
- 心血管イベントのリスクが示唆されている

【オプション】

ジクロフェナクナトリウム

イブプロフェン

トラマドール・アセトアミノフェン配合剤錠



※備考※

各薬剤の評価基準は、一般社団法人日本フォーミュラリ学会 モデルフォーミュラリ委員会の解説書を参考にし、詳細は札幌薬剤師会手稲支部に問い合わせる

問い合わせ先： satuyaku.teine@gmail.com

2023 年 9 月 5 日作成

(2025 年 11 月 4 日 レイアウト変更・統一)